

1 数値目標一覧

	指	標
	★新たな指標	
共通指標	★健康寿命(65歳の日常生活動作が自立している期間の平均)	
	★自分が健康だと思う市民の割合	
栄養・食生活	●就業または何らかの地域活動をしている高齢者の割合	
	適切な量と質の食事をとる人の増加	
	●主食・主菜・副菜がそろった食事をとれている人の割合	
	●減塩を意識し、できていると思う人の割合(できている、だいたいできている)	
	●野菜の摂取を意識し、できていると思う人の割合(できている、だいたいできている)	
	●朝食を欠食する人の割合	
	適正体重を維持している人の増加	
	●肥満者の割合	
	●低体重者の割合	
	●肥満傾向児の割合	
身体活動・運動	健康な食習慣を有するこどもの増加	
	●朝食をほぼ毎日食べるこどもの割合	
	日常生活の中で体を動かす人の増加	
	★1日60分くらい体を動かす生活を習慣化している人の割合	
	●運動習慣※を有する人の割合 ※1回30分以上かつ週2回以上かつ1年以上継続	
	★歩行時間(平日屋外・屋内で歩く時間)が1時間以上の人の割合	
	★座位時間(座ったり寝転がったりして過ごす時間)が8時間以上の人の割合	
	積極的に体を動かすこどもの増加	
	●体を動かして遊んだり、運動・スポーツをしたりしているこどもの割合	
	ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の減少	
休養・こころ	★足腰に痛みのある高齢者の割合	
	ストレスと上手につきあうことができる人の増加	
	●ストレスに対処できている人の割合	
	●睡眠で休養がとれている人の割合	
	★睡眠時間が6～9時間(60歳以上は6～8時間)の人の割合	
	豊かなコミュニケーションを築き、地域のつながりを強化	
●地域の人たちとのつながりが強いと思う人の割合		
自殺死亡率の減少		
●自殺死亡率(人口10万対)		

	現状値(R5(2023)年度)	最終目標値(R17(2035)年度)	出典
男性	18.34	延伸	介護保険事業状況報告(R2年度)
女性	21.24	延伸	介護保険事業状況報告(R2年度)
	78.6%	増加	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	57.7%	62.7%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	75.4%	80%以上	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	45.7%	60%以上	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	58.1%	70%以上	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
20歳代、30歳代	23.9%	15%以下	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
20～60歳代男性(BMI25以上)	25.8%	15%以下	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
40～60歳代女性(BMI25以上)	13.9%	10%以下	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
★20～30歳代女性(BMI18.5以下)	18.8%	15%未満	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
65歳以上(BMI20以下)	23.8%	22%以下	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
幼児(肥満度15%以上)	4.7%	3%以下	R5年度新潟県小児肥満等発育調査
小学生(肥満度20%以上)	9.00%	5%以下	R5年度新潟市学校保健統計
中学生(肥満度20%以上)	9.13%	6%以下	R5年度新潟市学校保健統計
小学生(5・6年生)	90.4%	100%	R5年度新潟市生活・学習意識調査
中学生	88.0%	100%	R5年度新潟市生活・学習意識調査
	42.4%	60%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
20～64歳	20.6%	30%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
65歳以上	37.1%	50%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	44.8%	64%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	43.3%	35.5%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
小学生(5・6年生)	81.4%	90%以上	R5年度新潟市生活・学習意識調査
中学生	76.4%	80%以上	R5年度新潟市生活・学習意識調査
65歳以上	55.3%	50%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	74.2%	80%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	75.3%	80%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	58.8%	60%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	25.2%	30%以上	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	17.5	H27年の自殺死亡率 (19.2)を30%以上減少	R5年人口動態統計

★新たな指標

指 標

たばこの煙を吸わない人の増加

●喫煙率

★中学生の喫煙経験率(今までにたばこを吸ったことがある中学生の割合)

喫煙・飲酒

●受動喫煙の機会を有する人の割合

★中高生の家庭内受動喫煙の割合

★将来(20歳を過ぎたら) たばこを吸わないと思う中高生の割合

アルコールによる健康障害の予防

●1日当たりの純アルコール摂取量が基準以上の人の割合

★中高生の飲酒率(この1か月間で飲酒したことがある中高生の割合)

幼児期・学齢期のむし歯・歯肉炎のない人の増加

●3歳児でむし歯(乳歯むし歯)がない人の割合

★12歳児(中学校1年生)の歯肉に所見が認められる人の割合

口腔機能の維持向上

歯と口腔の健康

★50歳以上における咀嚼良好者の割合

歯の喪失防止

●過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合

●80歳で20歯以上の自分の歯を有する人(8020達成者)の割合

●40歳で進行した歯周炎を有する人の割合

特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上

●新潟市国民健康保険加入者の特定健康診査受診率

●新潟市国民健康保険加入者の特定保健指導実施率

がん検診の受診率向上

●過去1年間※のがん検診の受診状況

(40~69歳・子宮頸がん検診のみ20~69歳)

※胃がん検診(内視鏡)、子宮頸がん検診、乳がん検診は過去2年間

生活習慣病の発症予防・重症化予防

健康管理

●メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合

●受診勧奨判定値域の人の割合

●メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組をしている人の割合

★血糖コントロール不良者(HbA1cが8.0%以上)の割合

★年間新規透析導入患者数

高齢者の健康づくり・フレイル予防

●低体重者の割合[再掲]

●就業または何らかの地域活動をしている高齢者の割合[再掲]

★高齢者の要支援・要介護認定率

企業・団体と連携した健康増進

●新潟市健康経営認定事業所数

	現状値(R5(2023)年度)	最終目標値(R17(2035)年度)	出典
20歳以上男性	21.2%	20%以下	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
20歳以上女性	7.3%	5%以下	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
★妊婦	0.8%	0%	R5年度股関節検診における成育医療等基本方針に基づく問診項目(3~4か月児)
	0.5% (R6(2024))	0%	R6年度新潟市民の健康づくりに関する調査(中高生対象)
行政機関	2.9%	0%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
職場	20.8%	20%以下	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
家庭	13.4%	10%以下	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
飲食店	18.9%	減少	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	22.2% (R6(2024))	0%	R6年度新潟市民の健康づくりに関する調査(中高生対象)
	88.6% (R6(2024))	100%	R6年度新潟市民の健康づくりに関する調査(中高生対象)
男性(40g以上)	17.6%	13.5%以下	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
女性(20g以上)	9.7%	7%以下	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	1.1% (R6(2024))	0%	R6年度新潟市民の健康づくりに関する調査(中高生対象)
	95.2%	98%	R5年度3歳児歯科健診事業結果
	17.6%	16.6%	R5年度新潟市学校保健統計
	80.1%	90%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	62.8%	70%以上	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	64.7%	85%以上	R5年度市民口腔保健調査(速報値)
	55.3%	50%以下	R5年度成人歯科健診事業結果
	38.0% (R4(2022))	60% (R11(2029))	R4年度新潟市国民健康保険特定健康診査法定報告
	15.7% (R4(2022))	60% (R11(2029))	R4年度新潟市国民健康保険特定健康診査法定報告
胃がん	53.7%	60%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
肺がん	54.1%	60%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
大腸がん	50.3%	60%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
子宮頸がん	43.6%	60%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
乳がん	51.4%	60%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	32.0% (R4(2022))	29% (R11(2029))	R4年度新潟市国民健康保険特定健康診査法定報告
血圧	27.0% (R4(2022))	26.5% (R11(2029))	新潟市国民健康保険 第三期保健事業実施計画(データヘルス計画)第四期特定健康診査等実施計画
脂質代謝(LDLコレステロール)	24.4% (R4(2022))	23.9% (R11(2029))	新潟市国民健康保険 第三期保健事業実施計画(データヘルス計画)第四期特定健康診査等実施計画
血糖(HbA1c)	9.5% (R4(2022))	9.3% (R11(2029))	新潟市国民健康保険 第三期保健事業実施計画(データヘルス計画)第四期特定健康診査等実施計画
	40.6%	50%以上	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	1.1% (R4(2022))	1%以下(R11(2029))	新潟市国民健康保険 第三期保健事業実施計画(データヘルス計画)第四期特定健康診査等実施計画
	197	増加抑制	自立支援医療(更生医療)受給者台帳(R5年度)
65歳以上(BMI20以下)	23.8%	22%以下	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	57.7%	62.7%	R5年度新潟市民の健康づくりに関する調査
	19.8%	20.2%を下回る (R8(2026))	新潟市地域包括ケア計画(第9期)
	346	380 (R8(2026))	新潟市健康経営認定制度における認定事業所数(R5年度)

## 2 健康づくり推進委員会委員名簿

※敬称略、五十音順

NO	氏 名	所 属 ・ 役 職 等
1	伊 藤 明 美	新潟市薬剤師会 副会長
2	井 上 達 朗	新潟医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科 准教授
3	川 添 杏 月	公募委員
4	木 立 朱 珠	公募委員
5	斎 藤 トシ子	新潟県栄養士会 会長
6	関 奈 緒	新潟大学副学長 保健学研究科・医学部保健学科 教授
7	◎田 邊 直 仁	新潟県立大学大学院健康栄養学研究科長 人間生活学部健康栄養学科 教授
8	村 山 伸 子	新潟県立大学副学長 人間生活学部健康栄養学科 教授
9	○山 本 泰 明	新潟市医師会 副会長
10	山 田 久 弥	新潟市歯科医師会 副会長
11	吉 田 正 子	新潟産業保健総合支援センター 産業保健専門職
12	葭 原 明 弘	新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学講座口腔保健学分野 教授
13	和 泉 哲 章	新潟市立白南中学校 校長
14	和須津 咲 子	新潟市食生活改善推進委員協議会 会長
15	渡 邊 路 子	新潟県産業保健看護部会 幹事

令和7年3月現在

◎会長、○副会長

### 3 用語集

用語(五十音順)	解 説
ICT	「Information and Communication Technology(インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー)」の略称で、情報通信技術のこと。
運動普及推進委員	地域に健康づくりのための運動を広めているボランティア。
SNS	「Social Networking Service(ソーシャルネットワーキングサービス)」の略称で、インターネットを通じて人と人をつなげるサービスの総称。
オーラルフレイル	加齢とともに、滑舌低下、食べこぼし、わずかのむせ、かめない食品が増える、などがみられる状態。
加熱式たばこ	たばこ葉やたばこ葉を加工したものを、燃焼させずに電氣的に加熱し、エアロゾル(霧状)化したニコチンと加熱によって発生した化学物質を吸入するタイプのたばこ製品。
居宅サービス	居宅で生活する要支援・要介護認定者に提供される介護サービス。
ゲートキーパー	自殺対策において、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人。
健康経営 <sup>®</sup>	従業員の健康の維持・増進の取組が、将来的に収益性を高める投資であるとの考えの下、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること。 NPO法人健康経営研究会の登録商標である。
健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活ができる期間。
口腔機能	かむ(咀嚼機能)、食べる(摂食機能)、飲み込む(嚥下機能)、唾液の分泌、唇の動き、舌の動き、発音(構音)機能など、口が担う機能の総称。
国保データベース(KDB)	国民健康保険中央会が開発したデータ分析システム。
サルコペニア	筋肉量が低下し、筋力または身体能力が低下した状態。加齢によるもの(原発性サルコペニア)と、不活動・疾患・低栄養などによるもの(二次性サルコペニア)がある。主に高齢者にみられ、運動・身体機能に障がいが生じたり、転倒・骨折の危険性が増大し、自立した生活を困難にする原因となることがある。
子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)	子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐワクチン。子宮頸がんとはヒトパピローマウイルス(HPV)の中で発がん性のある型のウイルスに持続的な感染が原因となって発症する。
市民調査(新潟市民の健康づくりに関する調査)	市民の健康づくりに関する意識や実践状況等を把握するために実施するアンケート調査。調査結果は、本計画及び新潟市生涯歯科保健計画の評価や今後の施策検討の基礎資料になる。
食生活改善推進委員	食を通じ、地域で健康づくりを推進しているボランティア。
心疾患	心臓に生じる病気のこと、狭心症・心臓弁膜症・不整脈・心筋炎・先天的な心臓の異常など心臓の病気の総称。
地域コミュニティ協議会	市と協働して地域のまちづくりやその他の諸課題に取り組んでいる組織。小学校区又は中学校区を基本とし、自治会・町内会を中心に、PTA、青少年育成協議会、老人クラブ、婦人会、民生・児童委員協議会等、地域のさまざまな団体で構成される。
地域密着型サービス	介護や支援が必要な方ができる限り住み慣れた地域で生活を継続できるように、地域の特性に応じ提供される介護サービス。
中高生調査(新潟市民の健康づくりに関する調査(中高生対象))	中学生や高校生の喫煙や飲酒に関する状況を把握するために実施するアンケート調査。調査結果は、本計画の評価や今後の施策検討の基礎資料になる。

用語(五十音順)	解 説
電子たばこ	香料などを含んだリキッド(溶液)を加熱して、発生するエアロゾルを吸入する製品。国内ではニコチンを含むリキッドは販売が禁止されている。
特定健康診査	厚生労働省により平成20年4月から健康保険組合や国民健康保険等の保険者に実施が義務付けられた健康診査。メタボリックシンドロームに着目し、糖尿病や高脂血症などの生活習慣病の発症や重症化を予防することを目的として実施されている。
特定保健指導	特定健康診査の結果、厚生労働省が定める基準値に該当する者を対象に行われる保健指導。
ナッジ理論	社会経済学的な理論で、行動を強制したり宣言したりすることなく、ちょっとしたきっかけを与えて、無意識のうちに良い選択を促す手法。
年齢調整死亡率	年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整しそろえた死亡率。
脳血管疾患	脳の血管のトラブルによって脳細胞が障害を受ける病気の総称。脳血管疾患には、大きく分けて、動脈硬化が進んで脳の血管が詰まる脳梗塞と、脳の動脈が破れて出血する脳出血がある。
標準化死亡比	人口構成の違いを除去して死亡率を比較するための指標。
フレイル	英単語frailty(虚弱)の日本語での表現で、「加齢や疾病に伴い心身の機能が低下した状態」をさし、健康と介護が必要な状態の中間の状態として、日本老年医学会が提唱した。しっかり栄養を摂ること、活動量を増やすこと、社会活動に参加することなどに取り組むことで、健康な状態に回復することが見込まれる。
プレコンセプションケア	プレ(Pre)は「～の前の」、コンセプション(Conception)は「受胎・妊娠」という意味で「妊娠前からのケア」を意味する。
ブレストアウェアネス	乳がんに関する正しい知識及び自分の乳房の状態に関心を持つ生活習慣のこと。
平均寿命	0歳の平均余命。
平均余命	ある年齢の人々が、その後何年生きられるかという期待値のこと。
HbA1c (ヘモグロビンエーワンシー)	過去1～2か月間の血糖値の平均を反映している糖代謝の指標であり、食事から採血までの時間の影響を受けやすい血糖値と比較して、そうした影響を受けにくい。糖尿病の早期発見や血糖コントロール状態の評価に有用な検査指標である。
慢性腎臓病 CKD(シーケーディー)	腎臓の働きが低下するか、蛋白尿が出るといった腎臓の機能異常が続く状態。
慢性閉塞性肺疾患 COPD(シーオーピーディー)	たばこの煙などに含まれる有害物質に長期間曝露されることにより肺が持続的な炎症を起こし、呼吸機能の低下をきたした状態。
メタボリックシンドローム	お腹まわりの内臓に脂肪が蓄積した内臓脂肪型肥満に加え、高血圧、高血糖、脂質異常の危険因子を2つ以上もった状態。重なる危険因子の数が多いほど、命にかかわる心疾患や脳血管疾患を発症する危険性が高まる。
有所見	健診結果の数値が異常値と判定される状態。
ライフコースアプローチ	胎児期から高齢期に至るまでの生涯を経時的に捉えた健康づくり。
ロコモティブシンドローム	運動器の障がいのために移動機能の低下をきたした状態。進行すると介護が必要になるリスクが高くなる。運動器症候群。
ワーク・ライフ・バランス	一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、人生の各段階に応じた多様な生き方が選択・実現できること。